

令和5年度 学校評価自己評価(前期)

鬼北町立日吉小学校

【評価基準】 A 80%以上達成 B 70%以上達成 C 60%以上達成 D 60%未満

重点目標		評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
確かな学力	①しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	B	○ICT機器を活用し、児童の主体的な発表につなげたり、授業に対する児童の興味・関心を高めたりできた。 ○オンラインによる他校との交流やロイロノートを活用したレポート視聴による感想交流を実施している。 ▽各学級での少ない児童の中での伝え合う授業や対話的な授業は、マンネリ化してしまう傾向にある。 ▽児童はしっかり考え、伝えようとしているが、伝え合うことによる対話的な学びにまでは高められていない。 ▽ アンケート結果では、教員の評価が低くなっている。	◇デジタルとアナログを融合させた授業が日常的に展開されている。 ◆少ない児童での伝え合う授業は、教師の仕掛けが必要となる。今後も、様々な方法で他校との交流や他学年との交流の場を設け、マンネリ化を防いでいく。 ◆自分の言葉で、最後まではっきりと発表することを意識させ、指導していく。 ◆教材研究と研究授業等を行い、児童一人一人が主体的・対話的な学習を行うことができるよう、授業展開を工夫する。 ◆少人数の利点を生かし、ペア学習、グループ学習を行い、児童一人一人が主体的・対話的な学習を行う。	
	②基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	○家庭学習振り返りカードを活用しての個別指導や、家庭への協力依頼を積極的に実施した。 ○朝学習や授業などで、みんなの学習クラブ(ドリル)や学習支援ソフト(ナビマ)を有効に活用した。 ▽家庭学習の習慣化については、個人差がかなりある。 ▽児童の自己評価(98%)は高くなっているものの、教員の評価(70%)と低くなっている。児童の取組の質の向上を目指す必要がある。	◇家庭学習振り返りカードを活用した個別指導により、家庭学習時間が確保できている児童が多くなってきている。 ◇家庭学習の習慣については、継続的な個別指導、家庭への協力依頼により更なる改善を目指す。個に応じた指導や課題設定を実施し、教師の確かな見取りによる基礎・基本の定着を図っていく。 ◆ブルーライトタイムが長くなることで家庭学習時間は短くなる。1日のブルーライトタイムを2時間以下にするよう児童・保護者への呼び掛けを繰り返し実施する。また、NOブルーライトデーを実施するよう啓発する。 ◆時間を掛けて丁寧に家庭学習に取り組むよう、繰り返し指導していく。	
	③読書に親しんでいる。	B	○ファミリー読書の啓発、読み聞かせ、好きな本の紹介、並行読書の推進など読書に興味を持たせる様々な取組を実施した。 ○放課後子ども教室でも読書に取り組んでもらっているため、全体的な読書量は増えている。 ○児童・保護者の自己評価が高くなってきており、家庭での読書量は増えていると考えられる。 ▽読書量について個人差が大きい。また、選ぶ図書の偏りがある。 ▽教員の評価が一番低くなっている。	◇読み聞かせボランティアの方による読み聞かせや教職員による読み聞かせを行い、児童の読書活動への意欲付けを図ることができた。また、毎月第1土・日曜日に行っているファミリー読書で、家庭での読書の機会が増えている。 ◆児童同士でお薦めの本を紹介し合ったり、教師が紹介したりするなど積極的に働き掛けるとともに、ファミリー読書を通して家庭との連携を強化する。 ◆児童に読んでほしい本を身近な場所に置き、本を手に取りやすい環境づくりに努める。 ◆2学期には、本屋へ行こうプロジェクトを予定しており、読書意欲を高める機会としたい。	
評価委員 学校関係者 所見	○地域のボランティアを活用しながら、よく取り組まれている。 ○ICTの活用は、年々向上している。少人数では、意見交換に限られるので、オンラインによる他校との交流を積極的にやってほしい。 ○日記は事実を羅列している文章が多い。五感を働かせて書くことの指導が必要では。それが、自分らしい考えを育てること、伝え合うことにつながる。 ○保護者、子供の自己評価に比べて教職員の自己評価の差は何？教職員の目標が高すぎる？ ○「選ぶ図書の偏り」は、あまり気にする必要はないのではないかな。まず、興味のあることから徐々に広げていけばよいのではないかな。読書の楽しさを知ることが大事。 ○少人数学級なので多様な意見が出にくいというデメリットがあるが、他校との交流や他学年との交流の場をより多く設けるなどの工夫をし、児童の主体的・対話的な学習へと導いていってほしい。 ○放課後子ども教室における読書については、宿題終了後、20分という時間が設定されているが、学年や、また個人差にふさわしい本というわけではなく、時間つぶしをしているように思われる。「読書」というには、ほど遠いものとして対処していただきたい。 ○少人数学級では、個の指導はできると思うが、児童同士では限られた関係でしかなく限界がある。 ○デジタル世代にとってICTを活用した授業は、取り組みやすいのはいいことであると思う。ただ一方では、目で見て考える力だけでなく、聞いて考える力もいいるのでは…と思うのでうまく融合できればいい。			学校の 対応策	○ICTは日々進化しており、活用方法について常に研修を積み重ねていかなければならない。今後もICTを活用し、個別に最適化された教育を実現していく。今後、1人1台の端末の家庭への持ち帰りを本格的に行うようになる。子供への学習アプリを活用した課題の出し方等を考える。また、生成AIの利用、個人情報の流出、著作権侵害のリスク等について考えさせる機会を確保する。 ○アナログとデジタルを融合させた分かりやすい授業を目指す。「読む・聞く・書く」の活動をアナログとデジタルでバランスよく取り入れる。日記指導・俳句指導を通して五感を使った表現力を高めていく。 ○主体的・対話的で深い学びができるよう、今後も他校との交流学习、他学年との交流学习を積極的に行う。 ○少人数の良さを生かし、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていく。 ○これまでに成果のあった、「家庭と連携したファミリー読書」や「土・日における読書の奨励」、「読み聞かせ」等を今後も続けていく。読書への関心が低い子供へ個別に本を紹介し、読書への意欲を高める。子供に読んでほしい本を教員が紹介したり、本の貸し出しに立ち会ったりするなど、読書活動の推進を積極的に行う。放課後子ども教室で読む本については、細目に入れ替えたり、低・中・高学年別に整列するなどし、子ども教室での読書が有意義なものになるようにする。

重点目標		評価項目	評価	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
豊かな心		④地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を 実践している。	A	○地域コーディネーターとの連携により、郷土学・総合的な学習の時間、社会科の見学等、年間計画に沿って実施でき、講師招聘もスムーズにできた。 ○3・4年生で川の生き物教室を実施するなど新たな取組を実施できた。 ○他校との交流学习も実施できた。 ○アンケート結果では、いずれも高い評価を得ている。	◇郷土学や総合的な学習の時間や理科、社会、生活科などあらゆる教育活動において、関係諸団体との連携が図られ、体験的な活動が実施できた。 ◇きずなの花配りで地域への感謝の気持ちを形にすることができた。 ◆みどりの少年団活動を充実させ、児童の自然体験の場を確保していく。 ◆今後も郷土学の充実を図るとともに、地域人材の確保・開発を図る。
		⑤進んで挨拶や返事ができる。	B	○児童会と生徒会が連携して、挨拶運動を実施した。 ▽個人差が大きい。先取り挨拶ができない児童もいる。 ▽声の大きさ、時と場所に応じた挨拶(いつでも、どこでも、誰にでも)に課題がある。 ▽アンケート結果では、児童の評価は高いものの教職員の評価が低い。児童の挨拶に対する認識があまい。	◇挨拶運動の実施にあわせて、コミュニティ放送による呼び掛けや活動旗の設置などによる啓発を行っている。 ◆朝登校時の玄関前の挨拶は、全員が元気よくできる。この挨拶をいつでもどこでも誰にでもできるよう、児童会や学級で話し合わせる。また、家庭と連携し、家庭での挨拶も充実させる。 ◆教員の声掛け、児童会役員や登校班の班長の日々の実践が、全校児童の挨拶に対する意識を高めることにつながる。リーダーの育成に努める。 ◆教員自らが率先して挨拶したり、称揚したりすることによって、高い意識をもって取り組ませる。
		⑥きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	A	○清掃、全校給食、各集会、小中交流などの様々な場面で上級生が下級生をリードして優しく接している。 ○俳句集会での話し合い活動においても、上級生が下級生をリードしている。 ○アンケート結果では、児童の評価が高くなっており、仲間を思いやりながら学校生活を送っていること考える。 ▽全校遊びの時間を設定することができなかった。	◇友達を大切にしながら、学校生活が送れている。今後も思いやりのある行動をしている児童を称賛し、思いやりの輪を広めていく。 ◆児童会を中心に計画を立て、リーダーシップを発揮できるような、全校で遊ぶ機会を設けたい。 ◆様々な行事において、きずな班での活動が実施できるか検討していく。
評価委員所見 学校関係者	○郷土学を活用した取組が素晴らしい。 ○体験的な活動は、郷土学による地域ボランティアの協力で、多面的な見方や指導を教授できる。子供も地域の良さや感謝の気持ちを実感している。地域行事の参加や協力なども積極的で、地域行事を盛り上げてくれており、感謝している。 ○これからも実践できるように。 ○ある朝の児童の会話「○○ちゃん、挨拶は大きな声ではっきり言ったほうがいいよ。そのほうが相手も気持ちがいいと思うよ。」素晴らしい一言。 ○評価項目(指標)が見直され、挨拶や返事、仲間づくり等の評価がよりやりやすくなったと思う。特に挨拶や返事は、教師、保護者、児童の評価の差をどう近づけていくか、今後の取組に期待したい。 ○郷土学をはじめ、交流活動等広報、掲示物、UCAT等で拝見し、充実感が感じられる。 ○挨拶に関しては、男児の方が積極的にできているように思われる。 ○通学時に出会う地域住民は、限られており、挨拶も顔見知りの人との挨拶にとどまっているように思える。不審者問題もあるので現状でよいと思える。 ○だいたい朝、子供たちに会うが、後で聞く話で、朝ご飯、しっかり食べないと聞いている子はやはり登校の様子も元気がないと感じる。声掛けしながら、朝ご飯の意識を高めたい。			学校 の 対 応 策	○今後も児童会主体の「あいさつ運動」や通学班長による「先取り挨拶」を続けていき、全校児童の「笑顔とあいさつ」という意識を高めていく。子供たちの明るい挨拶で、保護者や地域の方に、笑顔と元気をプレゼントできるよう、今後も挨拶指導に力を入れていく。決まった場所、決まった人、決まった時にしか気持ちの良い挨拶ができないため、教職員の評価が低くなっている。挨拶がいつでもどこでも誰にでもできるよう、教職員が挨拶の手本となれるよう、率先垂範の姿勢を心掛ける。地域の方から挨拶について称賛してもらっていることを子供たちへ伝え、挨拶への意識の向上を図る。 ○今後も、地域ボランティアの方の協力を得ながら、地域をフィールドワークにした体験活動を充実させ、郷土愛を育てる。 ○学校行事やきずな班による活動の場面を捉えて、高学年のリーダーとしての自覚と指導力を育てる。 ○武左衛門太鼓の演奏など、今後も地域行事への参加を呼び掛けていく。

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
健やかな体	⑦「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が図られている。	A	○元気アップ週間の保健調査から、就寝時刻を守れている児童が多く、良好な傾向である。 ○懇談会や保健だよりにより「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて各家庭に啓発した。 ▽朝食をとらずに登校している児童がいる。 ▽ブルーライトタイムの長い児童が見受けられる。	◇教育懇談会時に、ブルーライトの身体や脳への影響等、保護者へ啓発を行った。 ◆「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない家庭への啓発と、児童自身の自覚を促していく。 ◆就寝時刻が遅いのは、家庭事情にも左右されるが、生活習慣を見直すよう、児童への指導と保護者への啓発を継続していく。 ◆夜8時以降のSNSやゲーム、You-Tube視聴等をしないよう児童への指導と保護者への啓発を行う。
	⑧楽しく運動を続けている。	A	○天気の良い日には、運動場やワークコートで、雨の日は、トレーニングセンターで元気に遊ぶ姿が見られた。 ○体育の授業では、運動が楽しいと思えるよう、授業内容を工夫した。 ▽一部の児童は、外で遊ぶことが少ない。 ▽暑さ対策をしっかりと行なわなければならない。	◇放課後の水泳練習では、全員が参加し、個々の目標を決めて取り組むことで、泳力の向上を養うことができた。 ◆引き続き、授業や課外活動では、個々の体力に応じた目標を持って取り組む経験をさせることと、体力の向上と頑張る心を養う。 ◆外遊びを奨励する。 ◆帽子をかぶる等、熱中症対策をしっかりと行う。
	⑨元気で学校に通学し、明るく学校生活を送っている。	A	▽全校児童欠席0の日が授業日69日のうち、50日あった。 ○アンケート結果は、児童、保護者、教員ともに高い評価を得ており、元気に登校し、明るく学校生活を送っていることが分かる。	◇ほとんどの児童が元気に学校生活を送っており、良好と言えるものの、前年と比べると欠席「0」の日は減っている。 ◆2学期も全校児童が元気に登校し、学習や運動、行事に取り組めるよう、家庭との連携を図っていく。 ◆生活習慣の乱れから朝、元気がない児童がいる。ブルーライトタイムを少なくし、規則正しい生活をするよう繰り返し呼び掛けていく。
評価委員 学校関係者 所見	○ゲームやYou Tube等、親が本気にならなければ時間は守れない。学校もあきらめずに根気よく指導を。 ○放課後の水泳指導は、ほぼ全員が泳げるようになるので、ありがたいことだ。ただし、苦手な子供への配慮も必要。水泳嫌いにならないように。 ○これからも楽しい学校生活を。 ○一日の活力源の「朝食」は、しっかりとってほしい。保護者の方もしっかりと作ってほしい。 ○総じて高評価が得られているので、今後も継続した取組をお願いしたい。特にブルーライトタイムの長い児童への指導、保護者への啓発をお願いしたい。 ○家庭における保健調査というのは半%と結果を受け止めるべきであり、特に朝食については、若い保護者の朝食摂取者が少なく、また母親の自分の身支度に時間を掛け、子供に朝食を食べさせる時間が取れないというのが実状。パン食でも、トーストと補食というのではなく、菓子パン等が多く見られます。そのため、給食というのはとても大切です。 ○児童生徒それぞれの個性もあるので、良さを活かした方向でよいと思う。			学校の対応策 ○1日を元気で活動するためには朝食を食べることが大切であることを児童に指導する。また、懇談会や資料提示を行うなど、学級担任、養護教諭、栄養教諭がそれぞれの立場を生かして連携し、保護者への啓発を継続して行う。 ○学校保健委員会や教育懇談会、PTA役員会などで、ブルーライトの体への影響、ゲームの脳への影響などを話し合う時間を設定していく。そして、1日のブルーライト視聴の時間の制限、ノーゲームの日の実施とつなげていく。 ○放課後の水泳練習や陸上練習では、目標をしっかりと持たせ、個々の能力を最大限引き出せるようにする。 ○体育科の時間などで、様々な運動に取り組ませ、子供たちが、生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けさせる。 ○アンケート調査や教育相談等を通して、小さなSOSを見逃さないようにし、児童が学校に来ることを楽しみにする学校となるよう、全教職員が、よりよい人間関係つくりと分かる授業実践に努める。

重点目標	評価項目	評価	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
学校・家庭・地域の連携	⑩ホームページ、学級通信・学校だより等で、学校の取組を発信している。	A	○ホームページは、1学期100回の更新をすることができた。保護者の方はもちろん、他地域に住んでいる児童の親戚の方もホームページを楽しみにされているようだ。 ○保健だより、給食だより、ボランティア通信、学校だよりなど、定期的に発行することができた。 ▽学級通信の発行回数については、学級によっての差が大きい。 ○アンケート結果は、保護者、教員とも高い	◇ホームページやケーブルテレビなどのメディアを活用して、学校行事や児童の活動の様子を適宜情報発信できている。 ◇今後は、YouTubeを活用し、学校での活動の様子を配信していきたい。 ◆学級通信においては、学校だよりやホームページとの重複を避け、より具体的な児童の様子を伝える内容にする。1週間に1回は発行するよう心掛ける。
	⑪人・こと・ものとのかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	○郷土学、総合的な学習の時間等は、年間指導計画や地域コーディネーターの支援により、校外での学習が充実している。 ○保護者参加型の郷土学が実施できた。 ○児童の様子を地域の方からの教えていただくことが多く、ありがたい。 ○ アンケート結果は、よい評価を得ている。	◆今後も、地域とともに日吉らしい教育活動を展開する。 ◆今後も、地域行事に積極的に参加したり、地域ボランティアとの交流を密にしたりする。 ◆武左衛門太鼓を地域の方と連携して活動できるようにしていく。
	⑫保護者・地域住民・教職員と連携して教育活動を行っている。	A	○PTA総会への参加率100%をはじめ、参観授業や教育懇談会への保護者の出席率が高かった。 ○救急法講習会やレクリエーション大会への参加者が多い。 ▽教育懇談会への地域住民の参加が少なかった。 ▽6月の参観日は日吉地区全戸に参加を呼び掛けたが、参加者は少なかった。	◇学校運営協議会委員、日吉地区見守り隊、放課後子ども教室、読み聞かせボランティアの方など、多くの方々に協力をいただき、地域をあげて児童が育てられている。 ◆保護者の学校行事への参加率が高い。今後も保護者の意見を聞きながら、学校に来校しやすい雰囲気作りに努める。 ◆6月の参観日に、地域の方に参加していただけるよう広く広報活動を行うとともに、積極的に協力を呼び掛ける。
評価委員 学校関係者 所見				○日吉地区は学校への協力体制が整っているので、学習面や情意面でもよりよく育っている。 ○児童数が減少していくなか、転校生があった。子供と親から新しい風が吹いてほしい。それを受け入れる体制づくりが必要。 ○日吉らしい教育は、教職員が即答できるよう、共通理解を。住民にも具体的な話を。 ○地域住民としてももう少し協力ができれば。 ○You Tubeの活用は、大変よいところみと思う。 ○保護者の学校行事への参加率が極めて高いことがすばらしい。やはりPTAが学校を引っ張り、地域はそれを後押しする、支えるというスタンスが理想だと考える。困ったときは、地域が控えているぐらいがよいと思う。参観日への地域の参加は、すぐには成果が得られなくてもよいので、気長に呼び掛けてほしい。 ○学校からの情報発信はよいと思う。個人情報にも注意が必要な時代でもあり、今後も十分に調整し発信する必要あり。
			学校の 対応策	○学校行事への保護者の参加率の高さを維持できるよう、保護者が参加しやすい学校行事の在り方を模索していく。6月の参観日については、今後も日吉地区全戸に参加を呼び掛ける。 ○今後も学校運営協議会委員、日吉地区見守り隊、放課後子ども教室、読み聞かせボランティアの方等の協力により、日吉らしい教育活動を展開する。また、日吉らしい教育についての校内研修を実施し、教職員の共通理解を図る。 ○今後もホームページの更新に努めるとともに、ケーブルテレビ等を効果的に活用し、児童や学校の様子を地域の方々に知っていただくよう取り組む。また、学校だよりの地域配布を今後も継続して行う。You Tubeの活用についても検討していく。 ○地域とともにある学校を目指し、IターンやUターンした家庭の子供が登校しやすい雰囲気づくりに努める。 ○今後も地域コーディネーターや関係諸団体の方々との連携を密にした教育活動を行う。